

## 令和 4 年度 平和祈念展示資料館の運営業務委託の概要

## 1 基本的考え方

旧独立行政法人平和祈念事業特別基金から承継したさきの大戦におけるいわゆる恩給欠格者を含む兵士、戦後強制抑留者及び引揚者の労苦（以下「関係者の労苦」という。）に関する貴重な所蔵資料を後の世代に確実に引き継いでいくことを目的とし、所蔵資料の整理を進めるとともに、関係者の労苦について国民の理解を深める機会を提供するための展示等を行う。

このため、次の基本方針に従い、平和祈念展示資料館（以下「資料館」という。）を適切に運営する。

- (1) 所蔵資料を次の世代に確実に引き継ぐため、所蔵資料の適切な保存・管理に必要な措置を講ずる。
- (2) 所蔵資料の特性に応じた展示を行うとともに、企画展、地方展等を実施し、関係者の労苦について、国民の理解を深める機会を提供する。特に若い世代に関係者の労苦の理解が進むような方策を講ずる。
- (3) 図書資料の閲覧方法等を検討し、有効活用を推進する。
- (4) 労苦体験者の高齢化が進んでいることを踏まえ、貴重な体験談の映像資料化に取り組む。
- (5) ホームページ、デジタル・アーカイブ等デジタルコンテンツの充実に努める。
- (6) 戦中・戦後の労苦に関する資料の収集・保管・展示を行う関連する施設等と適切な連携を図る。

## 2 令和 4 年度運営業務の重点事項

基本的考え方を踏まえ、令和 4 年度は、以下の（1）～（3）に重点的に取り組む。

**（1）多くの人々に資料館を知ってもらうようにする（『認知度向上』）**

- ・ 関連映画（『収容所から来た遺書』）とのタイアップ
- ・ 多様な情報発信（ホームページ、SNS 等）
- ・ デジタルコンテンツの充実
- ・ 著名人や新たな語り部の体験談の映像資料化・上映
- ・ 昭和館・しょうけい館と連携した他館連携展の実施
- ・ 地方自治体等と連携した地方巡回展、他館交流展の実施
- ・ 通称やロゴマークの検討等

## (2) 専門家に資料館の価値を知らせ、活用してもらうようにする

### 『価値向上』

- ・全国各地の平和関連施設や歴史研究者、マスコミ等との連携強化（Web会議も活用）
- ・巡回展や交流展等を通じた専門家人脈の構築
- ・所蔵資料管理・情報公開システムの活用
- ・米国国立公文書館の資料調査
- ・年報の発行等

## (3) 若い世代に関係者の労苦について理解を深めてもらうようにする

### 『次の世代への確実な引継』

- ・アニメ映像の館内上映やYouTube掲載
- ・オンラインによる平和学習支援
- ・団体見学の誘致（修学旅行、研修等）
- ・貸出キットの活用、児童・生徒向けオリジナルグッズの配布
- ・3館連携スタンプラリーの実施、こども霞が関見学デーへの出展等

※事業実施に当たっては、以下に留意

- ・新型コロナウイルス感染症への対応
- ・情報安全セキュリティへの対応
- ・サプライチェーン・リスク低減への対応

## 3 業務体制

- ・資料館の職員全員が一体となって、『認知度向上』『価値向上』『次の世代への確実な引継』を図るため、運営マネジメントの強化、研究者やマスコミ等との連携強化の観点から、館長を配置
- ・館長の運営マネジメントを統括的に補佐する事務局長のほか、業務ごとに運営責任者を配置
- ・本社支援チームとの情報共有によるリスクアセスメント